

## 奈良時代の疫病対策

新型コロナウイルス感染症が世界中で流行し、感染防止対策として私たちの日常生活にも大きな変化が求められました。そこで平城宮跡資料館では、2020年6月16日より7月19日まで「古代のいのり－疫病退散！」と題して、奈良時代の疫病対策に関するミニ展示を開催いたしました。

奈良時代、天然痘が全国で猛威をふるい、特に天平9年(737)の大流行では政権の中枢を担う藤原四兄弟もその命を奪われました。展示会場では、呪符木簡や人形などの祭祀具や土器といった出土遺物をとおして、当時の人々がどのように疫病に立ち向かったのかを紹介いたしました。

二条大路の路面に掘られた長大なゴミ捨て穴からは、ほぼ完全な形をとどめる食器が多量に出土しました。出土した土器が完全な形をしていたのは、天然痘の感染を防止するために、まだ使える食器を捨てた可能性が高いと考えられます。また、平城京では、天然痘が流行する以前は比較的大型の食器が用いられていましたが、奈良時代後半になると小型の食器が使用されるようになります。この変化の理由について今まで特に言及されてきませんでした。まさに今と同じで、大皿での料理の盛り付けを避け、個々に取り分ける新しい生活様式が定着していった結果なのかもしれません。

展示会には、多くの方に足を運んでいただきました。来館者からは「昔の人の疫病に対する考えがよくわかった」「当時の人々が身近に感じられた」等のお声をいただきました。今後も皆さまのご期待に添えるような展示をおこなっていききたいと思います。

(企画調整部 藤田 友香里)



展示会場風景